YOKOHAMA SOEI

JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL 2025

横浜創英中学・高等学校

主役は、私たちだ。

2025年、創英が始めること。

New Curriculum

創英から始まる、
新しい学校の在り方。

もっと、主体的な学びを。

クラスの全員が、同じ学習内容を、同じ速度で習得できる。
そんなはずがないと思いませんか。
学ぶべき単元も、学ぶペースも、
一人ひとりが考えて選択できる。
クラスという単位ではなく、生徒ごとに異なる学習。
それが、横浜創英がめざす教育スタイルです。

もっと、社会的な学びを。

学校で勉強したことが、社会に出てからも役立つように。
誰しもが一度は考えたことがあるのではないでしょうか。
これからの横浜創英は「勉強のための勉強」から脱却し、
常に社会で必要になるスキル、能力に焦点を当てた
学習を展開します。

もっと、創造的な学びを。

予測不可能と呼ばれるこれからの社会。
従来の主要5教科に比重を置いた教育だけでは、
乗り越えるのは難しい。
必要なのは「目の前の課題を解決する能力」。
だから横浜創英は、生徒に課題を与え、
自由なアプローチで取り組む探究型を軸とした
学びへと転換します。

Our Approach

必修にしばられない。

自由選択制の、超拡充。

2025年度より、横浜創英の教育課程は大きく変更され、
科目の自由選択制を一気に拡充します。
特に高校での3年間は、6つのブロックに分けたうえで、
各ブロックで生徒が主体的に科目を選択。
進路を見据えながら、自身の学習内容を検討します。
完全に生徒が学びたいこと、学ぶべきことだけを学ぶ
3年間を実現します。

学年に、しばられない。

ゆるやかな学年制の実現。

幅広い選択肢のなかから、
取りたい授業を選択する自由選択制。
それが実現するときに、ひとつの授業が
ひとつの学年だけになるはずがありません。
学年をこえて習う範囲を学んでもいい。
学年さえも生徒の成長には必要のない枠だと考えています。

学校に、しばられない。

社会課題と向き合う授業。

これまでの「学校のあたりまえ」を疑い、
学校の役割を再定義していくなかで、
そもそも「学校」の枠をこえていこうという考えも生まれました。
いずれ社会に出ていくのであれば、
今から社会で学ぶシーンがあってしかるべき。
だから創英は、学校を出て、
大学・社会で課題と向き合う機会を、
他を圧倒するレベルで用意することにしました。

建学の精神
「考えて行動のできる人」の育成

詳しくはこちらから

横浜創英で身につける3つのコンピテンシーと9つのスキル

1. 自律　①PDCA ②メタ認知能力 ③セルフコントロール
2. 対話　④エンパシー ⑤パブリックリレーションズ ⑥コラボレーション
3. 創造　⑦サイエンスリテラシー ⑧クリティカルシンキング ⑨情報リテラシー

主体的に学ぶ授業

生徒が自ら学びに向かってくれるなら、それが理想。
なら、学校の役割は「そうなるように仕組みを整える」ということ。
生徒が受け身になっている状況には、テコ入れが必要。
日々の多くを占める授業でさえも、テコ入れが必要だったのです。

創英が変えたこと #01 一方的に教えるだけの授業

WHY なぜやるのか

教員が教壇に立ち、同じ授業をクラス全員に一方的に教える。この当たり前のスタイルの問題点は、「一人ひとりの理解の違いに向き合っていない」という点。理解が遅れている生徒にとっても、進んでいる生徒にとっても、非効率的な時間が過ぎていきます。

HOW どうやるのか

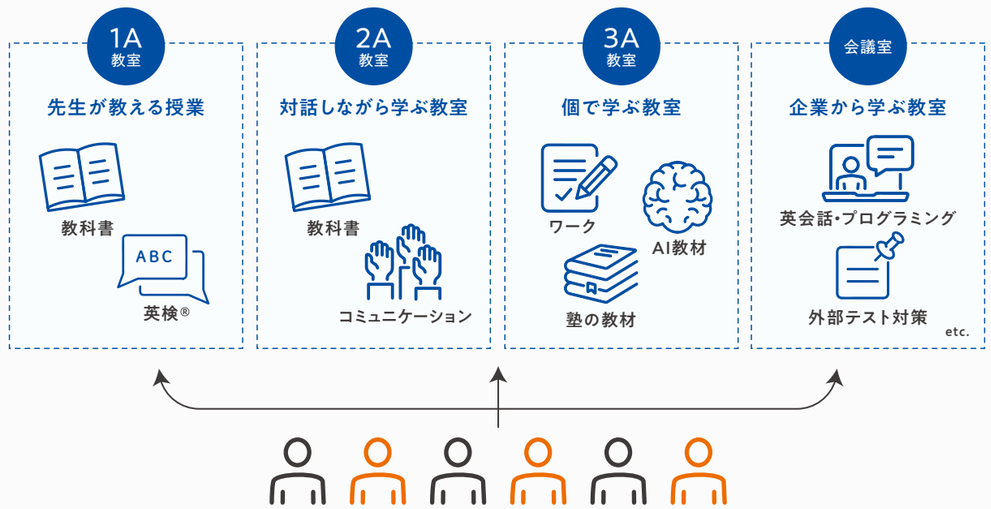
生徒の習熟度や学びたい方法に合わせてスタイルを変えられる選択型を採用。生徒自らが強みや弱みを意識した上で目的を見つけ、壁を乗り越えるべく学び方に対して最適な方法を考えて実行していきます。横浜創英での教員の役割は、「教える」ではなく「支援する」こと。これが「生徒主体の授業」です。

一方的に教える授業の問題

多様な能力や学び方に対応できない

創英の選択制 自律型学習（中1~中3合同）

※英語の例



クラスにも学年にも縛られず
一人ひとりが求める「学び方」の授業を選択

社会を強く意識した授業

学校は生徒の主体性を取り戻す教育に変わらなくてはなりません。
自分は何が強みなのか、自分は何を実践したいのか。
正解のない時代だからこそ、自分の頭で考え、自分の力で実行できる生徒を育てたい。
そんな考えのもと、新しいカリキュラムを構築しました。

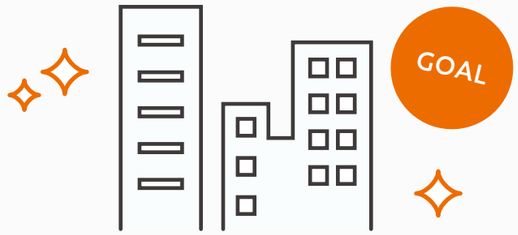
創英が変えたこと #02 受験や試験のためだけの授業

WHY なぜやるのか

近年、大きな話題になっているAIの発達。知識の伝達はAIがやってくれる時代が必ず来ます。そんな時代の変化に応じて、学校の役割もまた大きく変えていかなければなりません。AIだけでは解決できない社会課題がたくさんあります。これからの学校は、知識だけでなく、課題解決の力を育てていかなければならないのです。

HOW どうやるのか

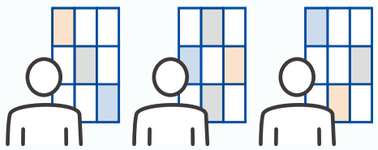
学校は、未来を育む機関。常に先を見据え、社会を生き抜く力をつけることが使命です。私たちは改革の最上位目標に「生徒の当事者意識を育て、生徒主体の学びを実現すること」、そして「実学的な学びで生徒と社会をつなげ、社会に貢献できる人材を育てること」を掲げ、社会の構造を強く意識した教育体制を整えます。



社会をデザインできる生徒を育成

社会的な課題を分析し、
達成可能な未来図を描いて解決できる生徒

自由選択制の大幅な拡大



生徒一人ひとり多様な時間割（高校）

必修科目は最低限に、
カリキュラムの大半を自由選択科目へ。
自ら学びを選択することで、
未来を主体的に考える力を醸成。

学年制を柔軟に運用

社会と同様、年齢でまとめない

社会に出て、
同じ年齢の人とだけ仕事をすることはない。
だから学校でも、
学年ごとに授業をする必要はない。

2025年度から二期制（半期ごとの単位認定）**で**
本格スタート

社会とつながる高大連携

中学生や高校生は、学校で勉強しなければいけないなんて
いったい、誰が決めたのでしょう。
いずれ社会に出て活躍する彼らには、次の社会をリードする彼らには、
きっと「学校の外」で学ぶべきことがたくさんあるはずです。

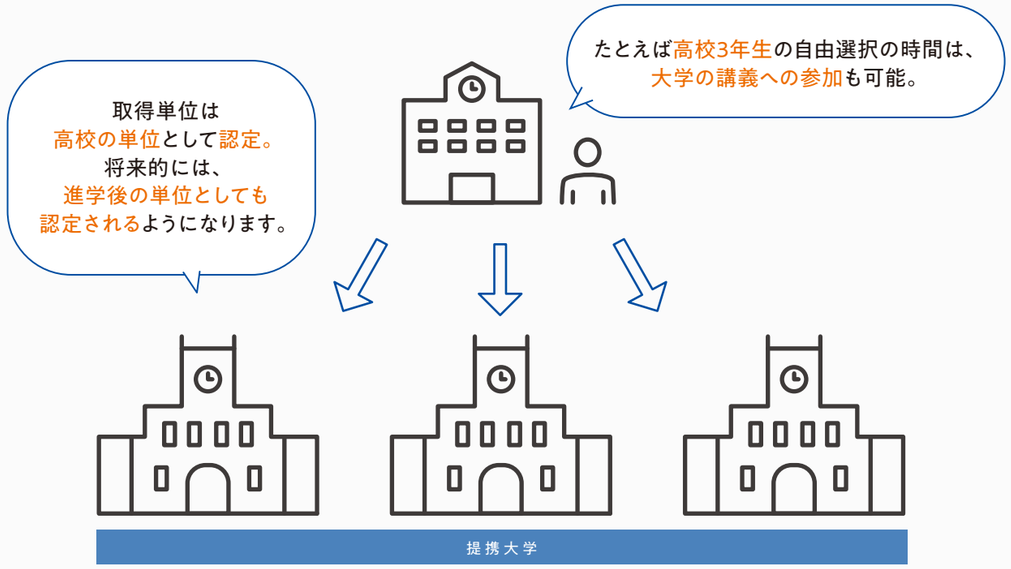
創英が変えたこと #03 学校の中だけの授業

WHY なぜやるのか

横浜創英は、高校生の可能性を信じています。それは将来の話ではなく、現時点で社会に貢献できると考えている、という意味です。そのために、高校という場所を社会で活躍するための場所に変えていきます。社会で必要な経験を、高校が提供していきます。それを基本的な考え方に、社会とつながることを目標としたカリキュラムを構築しています。

HOW どうやるのか

日本の教育は、高校までを広く浅くの一般教養の習得機関として、その後の大学・専門学校、大学院で専門的なスキルを身につける構造になっています。この境目を薄くすること、それが横浜創英の目指す高大連携。自分の強みや尖りを高校時代から意識できる環境を構築し、より専門性の高い学びへ、自ら進んでいく構造へと改革を進めていきます。



提携大学は現在 9 校

- 麻布大学 生命・環境科学部
- 清泉女子大学 地球市民学部
- 産業能率大学
- 城西大学
- 成城大学
- 昭和女子大学
- 城西国際大学
- 法政大学
- 筑波大学

PICK UP PROGRAM

法政大学
課題解決型フィールドワーク

法政大学との連携では、フィールドワーク型の学部横断のプログラムに参加。本校生徒参加時のテーマは自然災害。災害発生時、被災者を大学で受け入れる際、どのような施設が必要かを学びました。

産業能率大学
探究型プロジェクト学習

経営学部の学生が、石垣島に高校生を修学旅行生として誘致するために、SDGsを加味したプログラムを作成します。本校の生徒は、プレゼンテーションの講評・評価者として探究型学習に参加してきました。

チーム担任制

自律の対極は、“指示待ち人間”だと思います。
横浜創英の最上位の教育目標は、「考えて行動のできる人」の育成。
生徒たちが「与えられること」に慣れないように、
担任の先生さえ、自ら考え、選ぶことができる仕組みを考えました。

創英が変えたこと #04 固定担任制

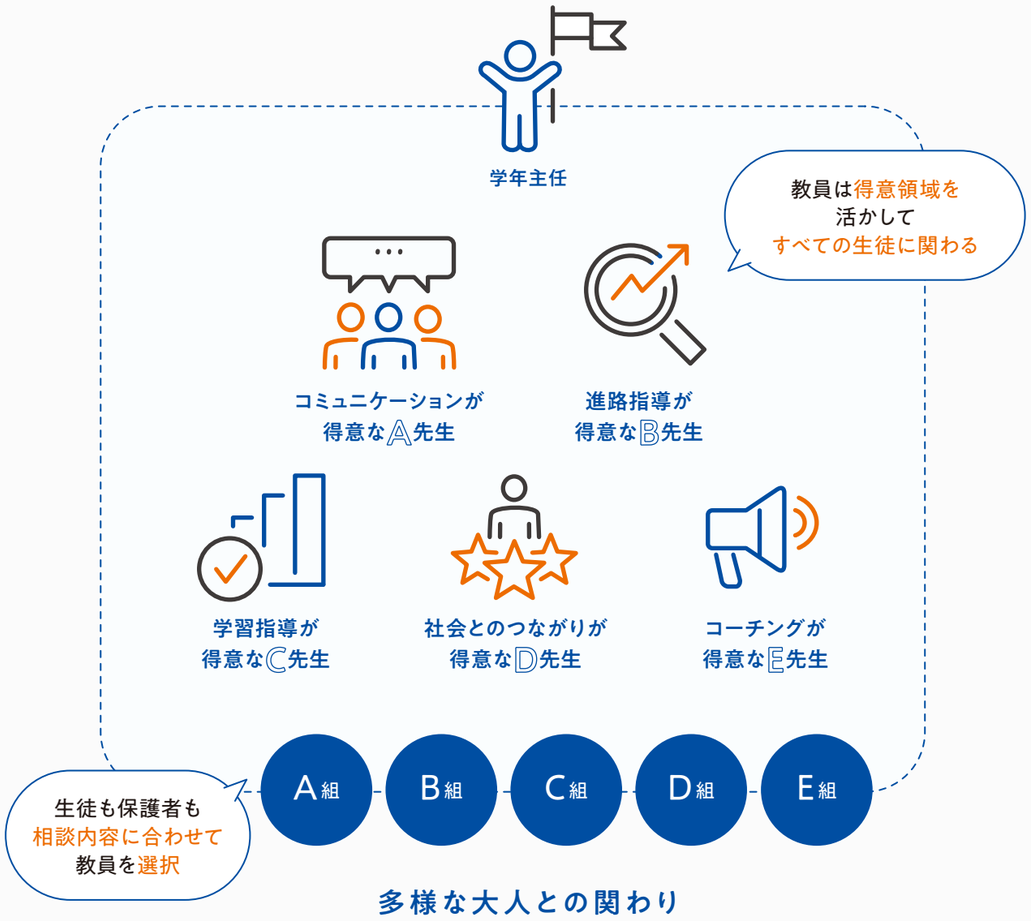
WHY なぜやるのか

年間を通じて、同じ生徒を同じ教員が管理する固定担任制は、学校側にとっては効率の良い手法でした。しかし、「あっちのクラスの担任はアタリ」「いくらがんばってもこの先生とは合わない」という意識を持つ生徒が存在するのも事実。固定担任制は、生徒たちの他責思考を生み出す一因になっています。

HOW どうやるのか

従来の固定担任制を廃止し、1つのクラスを複数の教員で担当する「チーム担任制」を中学で導入。生徒はどの教員と相談/面談するか、自ら選択できる仕組みです。そのとき抱える悩みやつまずきに応じて「誰と相談/面談すれば解決できるのか」を考え、主体的に解決へと向かう思考を日常のなかで身につけていきます。

チーム担任制のイメージ（中学）



多様な大人との関わり

教員たちはチーム医療のように、その時の生徒たちの状況に必要な教員が関わります。
また生徒は、三者面談や個別の相談でも先生を選ぶことができます。
その過程で、問題解決の手段としての「相談する」というスキルを手に入れます。

横浜創英のコースガイド

Course Guide

横浜創英には中高一貫のサイエンスコース、グローバルコースと高校入学生向けの特進フロンティアコースがあります。どのコースも目指す姿は「より良い社会を創っていく当事者になる」こと。当事者意識を育てるために、中学では学び方を手に入れ、自律的に学ぶ基礎を身につけ、高校では豊富な自由選択科目から自分自身のカリキュラムを創っていき、進路実現を目指します。

VISION

より良い社会を創っていく

当事者になる

中高一貫コース

科学的思考で社会に貢献する

サイエンスコース

解決したい社会課題を自ら発見し、
その解決に向けて科学的思考を用いて、
試行錯誤しながら実践的に問題解決力を
身につけていきます。
テーマは自然科学だけでなく、
人文科学、社会科学など
広い分野から設定できます。

- 探究の成果を発表する
- 実践研究・仮説の検証
- 基礎研究・自分でテーマを設定する

問題発見解決型

サイエンスコース
猪又 滉史先生

サイエンスコースでは、自分で探究したいテーマを設定し、科学的思考で学んでいきます。そのため、自分で探究したいこと、好きなことがはっきりしている人に向いているコースです。

世界的視野で実践的なスキルを身につける

グローバルコース

実際に社会で活躍されているゲストから与えられる
共通の課題を解決に向けて対話を重ねます。
その中で、分析、仮説検証、パブリックリレーションズなどの
ビジネススキルに触れながら、
世界的視野での解決策を提案する経験を繰り返します。
その中で英語を始め、手段としての言語への関心を深め、
スキルとして学んでいきます。

- 探究の成果を発表する
- 実践研究・専門家との協働
- 基礎研究・ケーススタディー

課題設定解決型

グローバルコース
山田 明子先生

グローバルコースは、設定された課題に対し、その解決策をグローバルな視点で探究するコース。まだやりたいことがわからなかったり、興味がたくさんあったりする人に向いているコースです。

高校2年	発信
高校1年	実践
中学1年~3年	調査
探究の方法	

高校

未来を創る当事者に成長する3年間

特進フロンティアコース

多様な自由選択科目を組み合わせ、
進路実現に向け、必要な知識技能を自律的に身につけていく
高校入学生向けのコースです。
高校からスタートする対話・創造型授業、
コラボレーションウィークなどの探究型の授業を
サイエンスコース、グローバルコースと共に学び、
これからの社会で必要なスキルを培っていきます。

高校独自プログラム（全コース共通）

- 対話創造型授業
- コラボレーションウィーク
- 4Cスキル研修

対話創造解決型

特進フロンティアコース
横井 秀郎先生

「今起きている世界の課題を解決するには?」高校生から幅広い視点に立って、世界の課題に向き合い、探究するコースです。人と人との協働をもとに学びを深めることができます。

Case 01（中高）

各界の「トップランナー」たちとの連携

あらゆる業界で活躍するトップランナーの方々とのコラボレーションを実現。
令和5年度は、総勢15名の協力者とともに授業を創出しました。
成功体験はもちろん、積み重ねた失敗エピソードも。
彼らの人生を追体験することで、生徒たちは新たなモチベーションを手に入れます。

#1 パフォーミングアーティスト サカクラ カツミさん

人生を自分で作るマインドを

日本のパフォーミングアーティスト・振付師で国内外での講演活動も行い、世界的に活躍しているサカクラさん。学生時代の内向的なマインドから、ポジティブに生きるようになった秘密を紐解いてお話ししてくださいました。人が変わるために必要となる大切なキーワードは、「自分と比べる」「数字に重きを置かない」「熱中する」。その言葉は生徒たちの胸に深く刺さり、自分の未来を見つめなおすきっかけとなりました。

#2 植松電機社長 植松 努さん

思うは招く～夢を叶える秘訣～

植松電機でロケット開発も手がける植松さん。「人は足りないからこそ助け合える。足りないことをダメだと思わないでください」という言葉で、「苦手なもの」のイメージが変わっていきます。「一人だったら、いくら頑張っても一人分。助け合ったら一人ではできなかったことができるようになるよ」と苦手なものを乗り越える秘訣から、「夢は人に話せば話すほど実現につながるよ」と将来の夢までつながっていく時間になりました。

#3 応用神経科学者 青砥 瑞人さん

脳を知ることで自分の可能性を伸ばす

「三日坊主」は脳の特性で誰にでもなるんだ。そう知るだけで、少し安心しますよね。そこから、どうやる気を出すか。脳科学の観点から紐解いていきます。やる気に関わるドーパミンは「好きなことに熱中する」「未知のものにワクワクする」時に分泌されるといいます。だったら、好きなこと、未知のものに挑戦する時間を増やせばいい。これからの学びのヒントをいただきました。

#4 教育YouTuber 葉一さん

自分の説明書は自分で作るしかない

動画で5教科の基礎を学べる「とある男が授業をしてみた」で人気のYouTuber葉一(はいち)さん。今は、解説動画にとどまらず、勉強法や子どもたちの悩みに答える動画も配信しています。横浜創英の自律学習に葉一さんの動画は欠かせません。勉強の悩みを解決するためにも、自分の強みを「説明書」として表現しよう。そして、たくさんの強みを掛け算して、最強の自分を作っていこうと力強いメッセージをいただきました。

#5 テレビカメラマン 坪谷 健太郎さん

《聴診器》を持とう ～再発見する取材術～

カメラマンやディレクターとして多くの撮影や取材の経験から、日々のコミュニケーションに活かせる対話のスキルを手に入れていく体験をしました。一方的な講義ではなく、先生方や生徒の代表も実際に「取材される」「取材する」を体験し、「ビジョンを共有する」「答えやすいものから」「対話で深めていく」スキルを学びました。実際にラジオ番組を作る過程を体験しながら、相手の立場に立つ「聴診器」を意識した対話ができていました。

#6 元陸上競技選手 為末 大さん

自分をコントロールして成長する

今の中学生にとって、スマホや動画など誘惑の強いものに支配されない生き方はとても大切で、自分をコントロールするという概念とそのスキルは重要です。為末さんの陸上競技選手として、世界を舞台に活躍された経験から、一つひとつの選択を積み重ねることで、高いレベルに到達することを学びました。「スマホを使う」「我慢する」、「勉強する」「サボる」……。目の前には常に選択肢があり、それを決めるのは自分自身なのです。

#7 作家 小松 成美さん

作家の私にできること ～文学が人をつくり、世界を変える～

会社事務員から、作家への転身。やりたいことを大反対されてもやり遂げ、読む側から、書く側になった人生は、目標に向け、自己選択を繰り返す一つのロールモデルになったことでしょう。小松さんは、イチローさんや、中田英寿さんといったインタビューをもとにしたノンフィクションの作品が多く、小松さんの言葉を通して、第一線で活躍した方々の苦悩や葛藤を子どもたちは疑似体験しました。言葉で表現し、人生の選択肢を広げながら新たな世界を創っていく素晴らしさを感じる時間になりました。

#8 大空小学校初代校長 木村 泰子さん

「みんなの学校」が教えてくれたこと ～ふつうって何?～

「自分の言葉で話していいんだよ」と優しい笑顔で授業がスタートしました。「普通って何だろう」「人権って何?人権という言葉を使わないで説明して」……。あっという間に生徒たちは自分の言葉で話し始めました。「あなたはあなたのままでいいんだよ」「普通の子なんていないんだよ」という言葉に安心した表情も見られます。「失敗したらやり直しをすればいい。失敗を成功体験に変えましょう。」「学びの目的は、あなたがあなたらしく育つこと。」生徒たちの背中を押していただける言葉で講演は締めくくられました。

Case 02（中学）

ミライ探究

企業・大学訪問

学校と社会はつながっている。
だからこそ、早い段階からロールモデルとなる
大人に出会うことは貴重な機会。
生徒たちが「自分もこんな大人になりたい」と、
未来に希望を持てるように。
企業・大学を訪問するミライ探究プログラムを通じて、
カッコイイ大人の姿をその目と心に焼き付けます。

WHY 自分の将来像に、より具体的な希望を持つ。

横浜創英は、学校とは「社会に出た後も自律して生きていく力を身につける場」だと考えます。自分の将来像を明確に持ち、目的を掲げて行動することが欠かせません。そのためには、学校だけにとどまらず、社会で活躍するたくさんの大人に出会うことが重要です。

HOW 大学・企業訪問を通じて、実例から考える。

大学や企業と連携して、実際に第一線で活躍する方々を訪問するミライ探究を導入。訪問後は、学んだ内容を資料にまとめて理解を深め、発表する場を設けます。ロールモデルとなる大人と出会い、理想の自分や将来の姿を前向きに考える機会を作り出します。

Case 03（中高）

プロジェクトフェスタ

サイエンスコース、グローバルコースのプロジェクト学習は
アウトプット（発表）の場を大切にしています。
異なる学年の生徒から外部の大人や専門家まで
プロジェクトフェスタに訪れるゲストに
自分（たち）の探究を発表する場がプロジェクトフェスタです。
自分たちのアウトプットに対して得られる生の声が、
探究をアップデートし、未来につなげる原動力になっていくのです。

WHY 科学的思考・グローバルな視点で社会を創造する。

横浜創英で育てるコンピテンシーのひとつ「創造」する力を育てるには表現することが不可欠です。自分の探究を文章にしたり、絵や図にしたりすることを繰り返しながら、サイエンスリテラシー、クリティカルシンキング、情報リテラシーのスキルを身につけていくことを目指します。

HOW 対話・発表の中から、新しい価値を見出す。

探究の目的を伝えたい他者を意識して、自分に最適な方法で表現していきます。表現の方法はひとつではありません。文章で表現する人、絵や図で表現する人、プレゼンにする人、動画にする人……絵本や音楽にしてもいいでしょう。探究の成果を様々な手段で表現していく場になります。

2023年度訪問先

● 教育機関
麻布大学
東京工業大学
東京大学
東京都市大学
慶應義塾大学
洗足学園音楽大学
デジタルハリウッド大学
ヤマザキ動物看護大学

● 企業
ソフトバンク株式会社
SB C&S株式会社
株式会社時事通信出版局
スマートニュースメディア研究所
株式会社エクサ
株式会社COMPASS
プロビティ・グローバルサーチ株式会社
タイガーモブ株式会社
株式会社エキュメノポリス
株式会社ユーザベース
他11社

PICK UP PROJECT

テーマ設定

サイエンスコースは中学1年生の3学期に自身の探究テーマを設定します。一方、グローバルコースでは設定されたテーマに取り組みます。両コースとも対話を大切にしながら探究のステップを踏んでいきます。

データサイエンスの基礎

探究を進めるには、正しいデータの取り扱いが大切です。文献データベースの活用法や統計データの分析・処理法の基礎を習得しながら、データに基づいた科学の重要性を学びます。

異分野コラボレーション

それぞれが持つ異なるテーマ同士を融合させることで、新たな「何か」を創造する活動に取り組みます。一見して遠回りに見えるアプローチでも、自分にはない新たな発想が、価値の創造につながることも多々あります。

サイエンスコミュニケーション

探究活動の進捗や目標/課題を共有し合うことで、自身をメタ認知します。また、年間で複数行うプレゼンテーションは、その発表形式も多様。伝え方を考えることでサイエンスリテラシーの向上につなげていきます。

Case 04（中高）

4Cスキル研修

勉強のための勉強に意味はない。そう考える本校では、学校を小さな社会と捉え、
学校生活＝社会生活に活きる4つのスキルを身につけることを目的とした合宿を行います。
4つのスキルは「Creativity（創造）」「Communication（対話）」「Collaboration（協力）」
「Critical Thinking（分析的思考）」。それぞれの頭文字を取り、「4Cスキル」と呼んでいます。

WHY 問題は必ず起きる。解決するのは対話のスキル。

多くの学校では、校則を定めたり、先生が厳しく指導したりすることで、トラブルの防止・解決を行おうとしています。しかし、学校生活、ひいては社会において、トラブルは必ず発生します。だからこそ、横浜創英では、トラブルを解決する唯一の方法として「対話」のスキルに磨きをかけます。対話によって、お互いの共通の目的に向けて合意し、トラブルを乗り越えていく力。それこそが、多様性の時代に求められるスキルであり、それを身につけるためのプログラムが、4Cスキル研修です。

HOW 問題はチャンスに変えられる。チャンスに変えるのもスキル。

問題や失敗を、悪いこととして感じている方もたくさんいるでしょう。しかし、問題や失敗は本当に悪いことなのでしょうか。横浜創英では、問題や失敗を良い経験として、成長につなげるチャンスとして捉えています。4Cスキル研修では、目の前の問題や失敗をどのように乗り越えていくかを考え、ディスカッションし、問題をチャンスと捉える思考法を身につけていくと同時に、様々な対話スキルを学んでいきます。他者との対立、意見の食い違いも糧にしながら、社会に活きる力を身につけます。

PICK UP PROGRAM

ブレインストーミング

意見を出すときに必要なマインドセットを習得。「出た意見を否定しない」で「質よりも量を重視する」。その上で「面白いアイデアをみんなで組み合わせ」て検討し、目的にあった意見選びを行います。

プレゼンテーション

2023年度は『新1年生が学校生活を10倍楽しめるプロジェクト』をテーマに企画を考案。内容にストーリー性をもたせ、見せ方のコツや一貫性のあるプレゼンを心がけました。

トライアル＆エラー

話し合いの進め方や時間の使い方など、チームに必要なスキルを様々な角度から学ぶプログラム。チームに一人ずつ、ファシリテーターとして大学生が付き、サポートを受けながら進行します。

リフレクション

よかったと感じたことを伝える「ほめ合いのワーク」を行います。チームメンバーに対して前向きな声がけを行うことで、その後のグループワークを円滑に、和やかに進めることができます。

STUDENT's VOICE

順調そうに見えたディスカッションに足りていなかったのは「客観性」。

私たちの班では多くのアイデアが生まれ、順調だと感じていました。しかし、いざ提案をつくろうとすると、大学生のアドバイザーから進行面の問題を指摘され、そこで初めて実現性が低い企画であることを自覚。そこから企画を再設計し、なんとかプレゼンは成功。常に自分のなかに「客観的な視点」を持つことの重要性を学んだ経験になりました。

中学3年 M・Kさん

Case 05（高校）

コラボレーションウィーク

多様な価値観があふれ、答えのない時代と呼ばれる現代、そしてこれからの社会。
求められるのは、ひとつの正解に向かって突き進むことではなく、新しい答えを導き出す力です。
本校では、自分の知識や技能を組み合わせて新しい答えを生み出す力を育てるべく、
複数の教科を組み合わせた合教科型の授業を行う「コラボレーションウィーク」を実施します。

WHY ひとつの正解を探す時代は終わった。知識と技能を組み合わせた発想が必要。

成長期が終わり、成熟した社会。誰もが認める万人にとっての正解などなく、価値観は多様です。そんな社会において、ひとつの分野からひとつの正解が生まれることはもう少ないでしょう。必要なのは、分野横断的な考え方。例えば数学科で身につく論理的な思考力だけでも、社会科で身につく建設的な議論のアプローチも、それだけでは不十分。それぞれを組み合わせて活用することで、ただひとつの正解ではなく、新しい発想が生まれるようになっていきます。

HOW 40名を超える教員が繰り出す、20を超えるミッションに挑む。

コラボレーションウィークは、高校1･2年生の9月に1週間をかけて実施する取り組みです。40名を超える教員が、担当教科が異なる者同士でペアを組み、20以上の講座を開講。生徒たちはそれぞれ選んだ講座のなかで与えられたミッションに挑み、最終日にプレゼン発表を行います。ミッションはいずれも、ひとつの教科の偏った知識だけでは解決できない難問。多様な角度からのディスカッションを経て、生徒たちは自分だけでは生み出せない答えにたどり着きます。

PICK UP PROGRAM

英語×社会
なぜ日本人は英語を話せないのか ～話せない自分を変えよう～

日本の英語教育は本来の目的を失っていないか。大切なことは「英語を使って何をしたいのか」。幕末のサムライの英語勉強法をヒントに英語教育の本来のあり方を模索し、それに沿った英語の学習方法を考えました。

数学×国語
間取り図解いまむかし ～鴨長明の行きついた四畳半の城～

古典の名作『方丈記』を、数学的な知識を用いて読み解く講座。縮尺の知識を活かして「方丈の庵」の間取り図を再現したり、「方丈の庵」を現代に再現する費用を計算したりと、様々な視点で研究しました。

英語×国語
「お守りのことば」フォトブックを作ろう

「人生」という旅をするうえで、お守りとなるような大切なことばに写真を添えて、冊子を作り、たくさんの人に届けませんか?翻訳をするには、世界観やメッセージを伝える工夫が必要です。様々な文法や語彙と向き合い、宝物となる言葉をまとめた「お守り図鑑」を作りました。

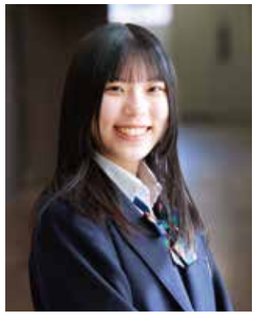
理科×社会
Social & Natural Science

自然科学と社会科学を融合し、身の回りのものや文化について科学的な理解を深める講座。例えば、「平安時代になぜ紫は高貴な色とみなされたのか」という疑問を、実際に紫色を作ることで解明しました。

STUDENT's VOICE

好きな言葉の翻訳は、人との向き合い方を考える時間でした。

私が選んだプログラムでは、好きな言葉を英語に訳し、それに合った写真を集めたフォトブックを作成しました。翻訳なんて、スマホで10秒もかからずできてしまう。でも「好きな言葉」だからこそ、その魅力を最大限に表現したい。そう思うと、簡単には訳せませんでした。受け取る相手を思い、言葉を選ぶ。翻訳を通して、人との向き合い方を学びました。



高校3年 F･Aさん

Case 06（高校）

対話・創造型授業

横浜創英がめざすのは、新しい時代の、新しい教育。
そのキーワードは、「自律・対話・創造」の3つのコンピテンシー。
これまでの学校では、育てられなかった力を育てるためには?
その最適解が、生きた知識を吸収し、実践に移す「対話・創造型授業」です。

WHY 新たな目標「コンピテンシー」の習得のために、新たなアプローチが必要。

これまでの教育になかった概念で、横浜創英が目指す教育が「コンピテンシー（行動特性）」の習得。コンピテンシーも様々で、横浜創英ではこれからの社会を見据え、「自律・対話・創造」の3つに重きを置いています。日本の教育においては、新しい概念。当然、従来通りの授業やプログラムでは身につきません。そのなかでも特に「対話」と「創造」のコンピテンシーを習得するためには、新たな授業スタイルを確立し、実施する必要がありました。

HOW インプットだけで終わらせず、アウトプットまで完遂する。

対話・創造型授業は、大きく3つのフェーズに分かれています。「対話」にフォーカスし、社会で活躍する特別講師の講話からインプットするフェーズ。次は「創造」にフォーカスし、同様にインプットするフェーズ。最後にアウトプットのフェーズとして、探究活動を行い、プレゼンテーションに移ります。多様な意見を取りまとめ、最後にかたちにして表現・発信する。この過程と成果によって、対話力と創造力に磨きをかけていきます。

PICK UP PROGRAM

自己理解・気持ちをより良く伝える方法

アンガーマネジメントなど、自らの感情との向き合い方を学んだのち、オリジナル書籍の企画書の作成を通して、自分たちの個性とその最適な表現方法について学びます。

他者理解のための知識

脳科学的な見地から人の行動や心理を理解し、道徳的な考えから問いを立てて答える。ユニークなアプローチで、他者との関わり方、自身との向き合い方を学びます。

異なる考えの人との共通解を導き出す方法・チームビルディング

他者の意見に耳を傾けたうえで、自分の経験をもとに意見を端的にまとめ、共通解や納得解を導き出すワークショップを実施します。

科学的な物事の見方・考え方

科学的な道に進み活躍される講師の方々のお話をもとに、あらゆる課題の解決のための「視点の持ち方」「手段の選び方」を学びます。

STUDENT's VOICE

誰かとの対話が、いつのまにか自分との対話になっている。

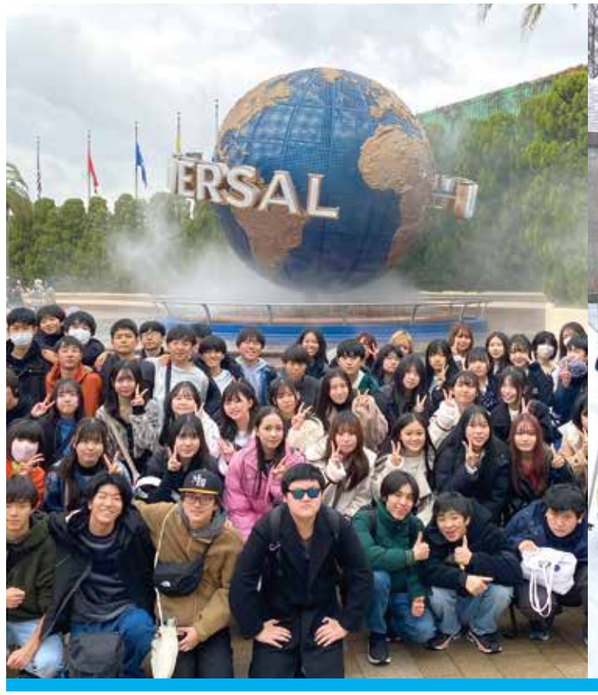
高校生活も半分を過ぎると、進路について大いに悩むようになります。自分もそうでした。しかし対話・創造型授業で多くの同志と考えを共有し、多彩な業界で活躍される講師の方々の話を聞くうちに、将来のイメージや目標とする大学が見え、悩みも晴れていきました。人と話すことは、つまり自分と向き合うということでもあると強く実感できた時間でした。

高校3年 S・Oさん

Case 07（中高）

企画型修学旅行・選択型旅行

学校側が用意した旅行プランでも、生徒たちはきっと楽しんでくれるでしょう。
しかし、青春時代の大切な思い出を、生徒たち自らの手でつくることができれば。
それはきっと、もっとワクワクする経験になるでしょう。
そして、修学旅行や研修旅行が学びの場であるなら、その準備さえも学びの場であるべきです。
なお、学校外企画として、海外研修スタディーツアー（任意）も多数紹介しています。



WHY 多数決で決まった修学旅行の行き先。少数派は、どう思うだろうか。

行き先は北海道か沖縄、どちらが良いだろう? これを生徒に問い、多数決で決めれば、生徒主体の修学旅行に見えるかもしれません。しかし少数派にとってはどうでしょうか。一生の思い出になり得る機会、どこかで「沖縄の方がよかった」と感じる時間は、寂しいように思います。「この学校じゃなければ」、そんな他責思考に陥るかもしれません。多様性を認め合おうという教育からかけ離れていることは、火を見るより明らかです。

HOW 旅行代理店との折衝を経て、高2では生徒自ら、6つのプランを作成。

横浜創英は、まず「行き先がひとつ」という前提を取り下げました。生徒たち全員が希望する行き先を選べる状態をつくるためです。そして、高2ではそれぞれが「行きたい場所」に行くために、実現可能なプランを制作し、旅行代理店との交渉を行いました。こうして完成したプランはすべてで6つ。中には2泊3日スキー漬けのプランもありました。学校主導で実施した場合、こんなプランはなかなか出てこないでしょう。「行きたい場所」でつくった思い出は、いつまでも心をあたためるのではないでしょうか。

PICK UP PROGRAM

旅行代理店との折衝

各コースの旅行委員が、旅行代理店に直接交渉して当日の計画を立てます。メールやZoomを使って、積極的に連絡を取りました。他の生徒の要望を最大限に実現させるために、責任を持って取り組みます。

中3修学旅行

生徒が旅行会社と直接連絡を取り合って旅行の企画をしました。5か月間の準備期間を経て、2023年度は大阪と広島の両方に泊まるプランになりました。

6か所に分かれる修学旅行

2023年度の高2は、神戸大阪・京都奈良・北海道・九州・沖縄・シンガポールの6コースに分かれて研修旅行を行いました。5月にコース希望調査を行い、6月から半年間かけて準備をします。「自分で決めた」から、当事者意識を持って参加します。

SDGs研修旅行

8月に中学生が希望制で尾瀬へ研修旅行に行きました。尾瀬の自然に囲まれながら、村の抱える課題に対してアイディアを出すことで、SDGsの多様な面について学びました。歌舞伎体験など、歴史や文化に触れる活動もしました。

STUDENT's VOICE

私の大切な場所を、大切な人たちに、紹介したくて。

私は福岡出身。いつか、自分が生まれた九州の地で街おこしに関わりたい。そんな思いがあったからこそ、大切な友人たちに九州の魅力を知ってもらいたくて、鹿児島・長崎・福岡の3県を惜しみなく楽しむコースを企画しました。改めて地元の魅力を深掘りして組んだ行程。友人たちが心から楽しそうにしている姿は、一生忘れないと思います。

高校3年 A・Kさん

Produced by Students.

生徒がつくる学校行事

横浜創英の学校行事は、すべて生徒主体。
なぜやるのか、どうするのか。目的も手段も、生徒が自ら考えながら
対話と協働で、それぞれの思い出をつくり上げます。

創英祭

中学・高校ともに2023年度は4年ぶりに多くの保護者の方、一般のお客様にご来校いただき大変活気がありました。様々な団体が、個性あふれる展示や演技を披露します。

体育祭

体育祭は、生徒が主体となって企画・運営します。生徒会や実行委員の生徒たちを中心に、競技の内容からルールまで決めました。中高全体で、大いに盛り上がります。

STUDENT's VOICE

多様性がまじわる学校行事。

大きな行事を運営する際に、異なる考えを持つ人や関わったことのない人もいて、自分の考えがうまく伝わらないことが多々あり、情報伝達や人をまとめることの難しさを認識しました。ですが、その際に様々な思いを知ることができて自分の視野が広がったように感じました。何より、本番当日みんなが楽しそうにしている様子を見た時が一番関わっていてよかったと思います。

高校2年 T・Mさん

〈2024年度例〉※2025年度より、二期制以降のため変更予定

4月	入学式 / フレッシュマンキャンプ（高1）/ フレッシュマンjr. キャンプ（中1）/ 模擬試験 / 保護者会（中2・3、高2・3）
5月	球技大会 / 1学期中間試験 / 保護者会（中1、高1）
6月	体育祭 / 二者・三者面談
7月	1学期期末試験 / 生徒総会 / 模擬試験
8月	夏期講座
9月	創英祭 / コラボレーションウィーク（高1・2）/ 4Cスキル合宿（中2）/ 模擬試験
10月	2学期中間試験 / 職業別講話（高1）/ 保護者会（中3）
11月	企業大学訪問（中1）/ 二者面談週間 / 模擬試験
12月	研修旅行（中3、高2）/ 2学期期末試験 / 冬期講座
1月	共通テストプレテスト（高3）/ 模擬試験（中1・2、高1・2）
2月	4Cスキル研修（高1）/ 卒業記念講演（高3）
3月	学年末試験 / 卒業式 / 春期講座

※変更する可能性があります。

生徒が主役のクラブ活動

誰に強制されるでもなく、自ら選び、参加するのが部活動です。
だからこそ、競技の成績や結果はもちろん、どんな姿勢で取り組むかも大切。
自由な放課後を、どう使うかは自分次第です。

中・高体育部	卓球部 / バスケットボール部 / ソフトテニス部 / ダンス部 / ワンダーフォーゲル部 / バドミントン部 / ハンドボール部
	/ 剣道部 / バレーボール部（女子）/ サッカー部（男子）
	/ バトン部［Power's CanCan］（中学女子）/ バトン部［BRIGHTS］（高校）
中・高文化部	文芸部 / 園芸部 / ESS部 / イラスト部 / 造形アート部 / 手工芸部 / 調理部 / 音楽部 / 児童文化部 / 吹奏楽部
	/ 書道部 / 放送部 / 競技かるた部 / 茶道部 / フォトアート部 / 将棋・囲碁部 / 科学部 / 軽音楽部 / パソコン部
	/ 演劇同好会

※一部の体育部は高校生のみです。各部活動のホームページにてご確認ください。
※なお、文化部においては2024年4月時点で、軽音楽部・手工芸部・調理部は高校生のみ入部可能です。

ACCESS

大口駅 → 徒歩8分
子安駅 → 徒歩12分
妙蓮寺駅 → 徒歩17分

大船駅〔JR東海道本線16分〕→横浜駅〔JR横浜線6分〕→大口駅
大和駅〔相鉄本線急行21分〕→横浜駅〔JR横浜線6分〕→大口駅
川崎駅〔JR京浜東北線12分〕→東神奈川駅〔JR横浜線3分〕→大口駅
町田駅〔JR横浜線26分〕→大口駅
上大岡駅〔京浜急行本線13分〕→横浜駅〔京浜急行本線6分〕→子安駅
武蔵小杉駅〔東急東横線13分〕→妙蓮寺駅

EVENT

学校説明会の詳細・ご予約方法、
その他のイベントについては、
本校ホームページをご覧ください。

本校のホームページ上で、
詳しい募集要項を公開しています。

中学

高校

横浜創英中学・高等学校
〒221-0004
横浜市神奈川区西大口28番地
TEL:045-421-3121
https://www.soei.ed.jp/